



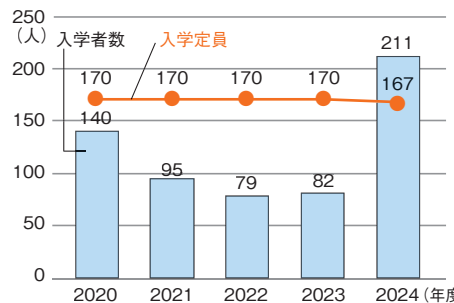
キャンパス／大阪府大阪市 学生数／295人
 理念／『道・真理・いのち』であるイエスに学び、正しい生き方を求め、真理を重んじ、命を尊重し、他者への愛と奉仕の精神を持つこと
 学科／幼児教育(こども学コース、教育テックコース)
 別科／日本語別科、介護福祉別科
 経営／学校法人OCC 他の設置校／聖愛幼稚園、せいあい保育園、グレース幼稚園、教育テック大学院大学

学科と定員、教育の取り組みの変遷

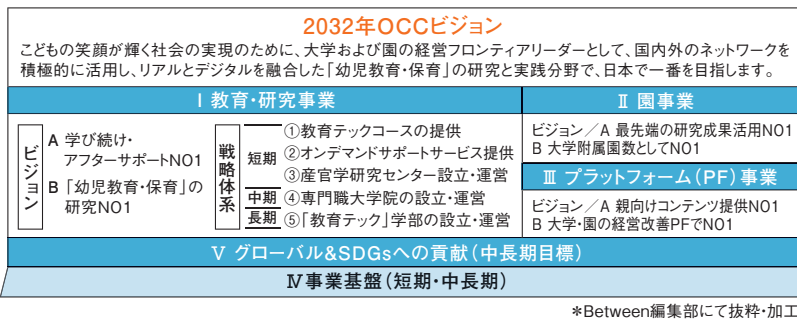
青字はその年度に改組、定員の変更があったもの

年度	2020～2021	2022	2023	2024
学科 ※()内は入学定員	幼児教育学科(170名)	幼児教育学科(170名)	幼児教育学科 (170名)	こども学コース 教育テックコース (167名)
収容定員	340	340	340	337
教育の 質向上に 向けた施策			▶幼児教育学科に「教育テックコース」を新設し、「こども学コース」との2コース制に再編 ▶2年間のカリキュラムを3年かけてじっくり学ぶ「長期履修制度」を導入 ▶教育の質を高めるための柱として、ICTを活用した授業を拡充	▶男女共学化 ▶教育テックコース内に「DXグローバルクラス」を設置
学生募集上の 施策	▶入学者が140人となったが、徐々に減少傾向に	▶志願者数減少。入学者79人と落ち込む。次年度「教育テックコース」新設に向け、連続講座を開催。高大連携協定校を拡充	▶入学者82人に。オープンキャンパス強化のためインフルエンサーを起用し動画配信。 ▶満足度向上のためキッチンカーを導入	▶入学者211人に
経営改革		▶経営陣の刷新。「10年の計」策定 ▶認可保育園6園を運営する会社をグループ企業とし、係属園に	▶「日本語別科」を設置。国際センターを設置し受け入れ体制強化 ▶大阪府教委とICT推進で連携協定調印	▶「介護福祉別科」を設置 ▶教育テック大学院大学の設置認可

■入学者数推移



■10年の計:2032年のOCCビジョンと戦略体系の枠組み

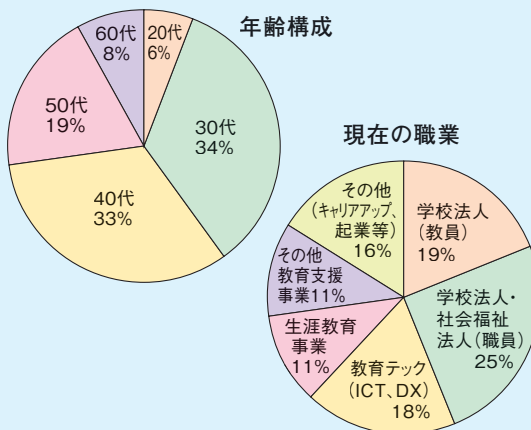


注目

「経営」と「教育DX」に特化した 社会人対象のフルオンライン大学院を開設

2025年4月、大阪キリスト教短期大学を設置する学校法人OCCは、教育機関の経営と教育DXに特化した「教育テック大学院大学」を開設した。「教育経営コース」と「教育情報コース」がある。実務経験が2年以上ある社会人が対象で、働きながらフルオンラインで学び、教育のMBAである「教育経営学修士」、教育のIT修士である「教育情報学修士」を取得する。「少子化により多くの学校が定員割れを起こしている今、学校経営の能力を高める必要があるが、教育現場の課題解決に向けた教育DXを専門的に学ぶ場はこれまでなかった。この大学院では、教育・経営・情報をバランスよく学ぶことができる。また、短大を卒業後、離職した保育士でもICTやグローバル教育を学び直せる場になるはずだ」と根岸理事長は話す。開設初年度の入学者は67人(定員67名)。入学者の職業は、幼保小中高校・大学の教員が約2割、そのほか右図の割合になっている。中には、民間出身の中高一貫校の校長やパラアスリート、母国で学校設立を志すアジア出身者などいても、多様な社会人から注目されていることがわかる。

教育テック大学院大学 1期生(67人)のプロフィール



マーケットのニーズを捉えた改革で 定員充足率50%からのV字回復実現

CASE
STUDY

大阪キリスト教短期大学

定員充足率50%という危機的な状況からV字回復を果たした大阪キリスト教短大。短大の募集停止が相次ぐ中、どう活路を開いたのか。理事長に話を聞く。



学校法人OCC 理事長

根岸 正州

ねがしまさくに●東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻修士課程修了。2003年株式会社野村総合研究所に入社。米国国務省主催International Visitor Leadership Programフェローを歴任。大学のコンサルにも携わる。2022年より現職。

定員割れを発端に 執行部と徹底的に議論

本学は幼児教育学科のみの短大です。分野の人気低下もあり、私が理事長に就任した3年前は、収容定員充足率が約50%と非常に厳しい経営状況でした。しかし、打開策として定員を大幅削減し、専任教員を減らすと、提供できる科目の多様性が失われて教育の質が低下します。その結果、短大の評判が落ちて募集に苦しみ悪循環に陥りかねません。そこで、本学は独自性のある教育を提供し、自学の価値を高める方針を採り、定員充足をめざすことにしました。

改革の指針として打ち立てたのが中長期計画「10年の計」です。執行部や外部有識者で毎週会議を重ね、3か月間で仕上げました。まず、外部環境の分析や学内リソースの洗い出しを行い、危機意

長期履修、国際化、ICT： 短大・保育の新たなニーズ

独自性のある教育の提供に向けては、短大マーケットのニーズを詳細に分析し、教育内容の見直しを図りました。短大進学者の中には、早く社会に出たい学生だけでなく、じっくり学びたい学生もいます。そこで、同じ内容を3年かけて学べる長期履修制度を導入。学費は据え置きとし、学生の希望に合った学び方を選択できるようしました。

また、学生が卒業後に就く保育士には、離職後の復職率が低いという課題があります。在学中にICTスキルも併せて習得できれば、保育の職場改善に貢献でき、さらに、離職後のキャリアの幅も広がるを考え、「教育テックコース」を新設しました。

留学生の獲得にも力を入れています。保育の現場に外国籍の子どもが増えているため、グローバル化への対応が必要だからです。ただ、留学生は日本で幼稚園教諭として就職しにくいいため、教員免許取得を目的としない「DXグローバルクラス」を設置しました。また、募集活動では、学校説明会で「2年制／3年制」「こども学／教育テック」の組み合わせで多様な学びができる、他に類を見ない短大であることをアピールしています。その結果、2024年度の日本人入学者は前年の1.5倍に増加。加えて、新たに留学生80人を迎え、定員充足ができました。

教育におけるICTの重要性は学校種を問いません。本法人が2025年度に開学した教育テック大学院大学には、多様な教育関係者が入学しました。潜在的なマーケットのニーズを掘り起こし、出口をつなげれば、まだまだチャンスは広がるのではないのでしょうか。